

ラボ・センター紹介

コミュニケーションデザインラボ

(Communication Design Laboratory)

担当教員: 当麻哲哉准教授

<http://kpri.keio.ac.jp/research/sub3.html>

研究室の概要

コミュニケーションデザインラボは、当麻哲哉准教授を中心とする研究室で、次世代のコミュニケーションをキーワードに、様々な研究に取り組んでいます。コミュニケーションとひとことで言っても、映像や通信技術を使った遠隔コミュニケーションの技術的研究があれば、それが社会にどのような価値を生み、産業の発展につながるのか、といった社会・経済・マーケティングの研究も行っています。文系、理系を問わず誰でも参加できる研究室です。

とくに理工学部や医学部とともに活動している大画面高精細映像と高速光通信を組み合わせた遠隔Face-to-Faceコミュニケーションシステムの開発は、当研究室の中核をなす研究課題です。この研究は、内閣府FIRSTプログラムの助成により行われており、当ラボの当麻准教授が副所長を務めるKPRI (慶應フotonクス・リサーチ・インスティテュート、所長: 理工学部小池康博教授) のサブテーマのひとつです。

KPRIサブテーマ3: <http://kpri.keio.ac.jp/research/sub3.html>

主な研究領域

- 高精細映像伝送による遠隔医療や遠隔教育の研究
- 映像遅延による作業性への影響に関する研究
- 臨場感の客観的評価手法の研究
- 異文化コミュニケーションに関する研究
- コミュニケーションを活用した地域活性化の研究
- 消費者行動モデルのデザインに関する研究

起業家を輩出してきた研究室の環境

当研究室のもうひとつの特徴は、これまでに多くの学生や修士生が起業している点です。自由にやりたいことをのびのびと行う環境の中で、ビジョンを持って意欲的に活動する精神、失敗を恐れず挑戦する精神を育てています。



NHKメディアテクノロジーの協力で4K3D映像の撮影(2011年)



医学部での大画面高精細3D映像の評価実験(2012年)



研究室一同集合写真(2013年)

比較政治制度システム論ラボ

(Comparative Political Systems Laboratory)

担当教員: ヒジノ ケン・ビクター・レオナード准教授

現在日本と世界が直面するあらゆる大規模社会システムの問題の根本には、利害関係者間の対立により合意形成が困難である事態が存在する。地域活性化、エネルギー問題、震災復興、教育改革、社会保障、安全保障、地球温暖化対策等、SDMの教員や学生が挑むテーマにも、技術的または本質的な改善策が存在するにも関わらず、意思決定プロセスにおける構造上の制約により改善が妨げられるケースが多くみられる。本ラボでは、社会システムにおける各ステークホルダー間の利害関係とそれぞれの要求を踏まえて合意を形成していく過程—いわゆる政治—を中心的テーマに据えている。

本ラボの中核テーマは政治制度であるが、中でも、地方自治、地方—中央関係、地域活性化、道州制における政治過程等に焦点を当てている。ラボは2011年4月に発足し、現在9名のゼミ生、5名の外部研究員が参加している。学生の研究テーマは、高等学校における市民・政治教育、景観保全における地元企業の役割、住民の政治参画、地方議会基本条例、広域連携などさまざまだ。

ラボでは、学期はじめに社会科学の方法論と比較研究の基礎知識に関する講義を行い、また、参加学生が関心を持つテーマに沿った良書(これまでは『失敗の本質』や『地域再生の罫』など)を題材に議論を行いながら、各学生の研究の指導を進めている。

比較政治制度システム論ラボ
Comparative Political Systems Laboratory

システムとしての政治-イーストンモデル



政治プロセスを形作る制度群



「良い政治」を誘因するシステム

政治制度の質、政策の良し悪し、政治制度のありよう、「良い政治」はどうか? アリストテレスを始め政治学の永遠のテーマである。政治システムとして設定、特定の政治制度やルールの下で有権者と政治家が互いの政治行動を相互に能動的に検証する。その知見をもとに好ましい行動が誘因される政治制度をデザインする。それが政治制度論者の使命だ。



政治制度の複合的相互作用と結果

個別の政治制度(サブシステム)をいっただけでは求めている「アップ」は実現しない。社会システム間の複合的相互作用、政治制度の相互作用と複合的結果を確証してやっと思定した「良い政治」の工事が可能だ。



政治制度の比較検証からリ・デザインへ

日本の政治課題や社会問題全般を改善したいとき、その問題事象の検証して見えない、隠れた他の制度や地域、または別の時代や状況と比較することによって、その事象の仕組みと原因に理解できる。その知見から、政策が改善される。

ヒジノ研究室での研究: 政治制度を中心に幅広い社会事象・「問題」を比較事例調査、サーベイデータ、その他質的・量的データをもとに要因分析を進めています。その確かな実証をもとに、実現可能な社会問題を改善する制度・政策提案を行います。

取り扱う研究テーマ: 地方選挙における公報のデザイン、「公共教育における政治教育システムの改善」「憲法発効における合憲性メカニズム」「政策評価指標のシステム・デザイン」「移民の為の交流委員会」「議会基本条例や電子議会の構築」「街づくり」「観光行政」などなど

ヒジノ准教授の主要テーマ: 「政治組織の地方・中央関係の再構築」「地方レベルの政党政治」「住民自治を促進する選挙と政治制度」など

ご連絡先: 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科
ヒジノ・ケン L: hijino@sdm.keio.ac.jp



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management